

「新型コロナ禍による米の需給悪化の改善と米価下落の歯止め策」についての  
意見書提出を求める請願

1 趣 旨

新型コロナウイルスの感染拡大による需要の「消失」から2019年産米の過大な流通在庫が生まれ、昨年産米の市場価格は暴落し、2度の緊急事態宣言などによる消費減少が止まらず、今年産米のさらなる米価下落が危惧されている。

このままでは、JAなどの米概算金等も備蓄米落札価格を反映した低水準になりかねず、多くの米農家が米づくりから撤退することにつながりかねない。

コロナによる需要減少分は、国が責任を持って「過剰在庫」分を市場隔離すべきであり、その責任を生産者・流通業者に押しつけることは許されない。政府の責任による緊急買入れなどの、特別な隔離対策が絶対に必要である。

同時に、国内需給には必要がないミニマムアクセス輸入米が毎年77万トンも輸入され、うち40万トンから60万トンが飼料用に販売され、国内産の飼料米需要を奪っている。不要なミニマムアクセス米の輸入数量調整など、国内産米優先の米政策に転換することが必要である。

コロナ禍という、かつて経験したことのない危機的事態の中で、農業者の経営と地域経済を守るためには、従来の政策的枠組みにとらわれない対策が求められている。

以上の趣旨から、下記事項についての意見書を政府関係機関に提出することを請願する。

記

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で起きた需要「消滅」による過剰在庫を政府が緊急買い入れし、米の需給環境を改善し、今年産米の過大な生産調整を回避すること。政府が買い上げた米をコロナ禍などによる生活困難者などへの食料支援で活用すること。
- (2) 国内では生産調整を実行しながら、国内消費に必要な外国産米(ミニマムアクセス米)の輸入を、当面、国産米の需給状況に応じた輸入数量調整を実施すること。

2 提 出 者

福井県農民連 会長 玉村正夫

3 紹 介 議 員

佐藤正雄

4 受 理 年 月 日

令和3年6月3日